

学校法人須賀学園  
宇都宮短期大学  
機関別評価結果

平成22年3月18日  
財団法人短期大学基準協会

## 宇都宮短期大学の概要

設置者	学校法人 須賀学園
理事長名	須賀 淳
学長名	須賀 英之
ALO	河田 隆
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	栃木県宇都宮市下荒針町長坂3829

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
音楽科		70
人間福祉学科	社会福祉専攻	50
人間福祉学科	幼児福祉専攻	70
人間福祉学科	介護福祉専攻	80
	合計	270

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

宇都宮短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 20 年 7 月 29 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

創立者の「全人教育」という精神は、様々な機会を通じて学生や教職員に周知が図られ、学園に根付いている。また、この建学の精神から導き出された教育理念・教育方針・教育目的も学園全体での共有化に向けて努力しようとしている。

多様な専攻やコースを設けるなど、学生のニーズや地域の要請にこたえつつ、教育理念を反映して体系的な編成がされている。授業内容・教育方法の改善について、十分努力し取り組まれている。

教員組織、教育環境、図書館などの設備備品類は、適正に整備されており、極めて良好な教育環境を提供している。学内施設は、緑豊かな敷地に空間的に余裕をもって配置され、全面芝生のグラウンドなどが整備されている。

教育目標達成のための取り組みは十分に行われており、卒業生にかかわる情報の収集も積極的に行われている。

ウェブサイトや学生便覧、ガイダンスなどを通じて建学の精神や学生生活の理解を支援している。アドミッション・オフィス（AO）入試など合格内定者に対しては、オープン・キャンパスでの体験学習や、音楽科では「夏期音楽講習会」への参加を促している。また「入学事前指導」として課題を与え、添削指導を行っている。入学後はオリエンテーションを実施している。就職状況については、2 学科とも高い就職率を維持している。

研究活動に関する経費的及び発表機会などの環境は整備され、短期大学としての水準を満たしている。

公開講座等の開催など、地域の行政・教育研究機関等と連携をとり、積極的に地域活動を展開し、地域社会への貢献が行われている。当該短期大学の積極的な支援体制の下、学科の特性を生かし、学科としてボランティア活動に取り組んでおり、学生の社会的活動を促進している。

理事長のリーダーシップの下、学校法人及び当該短期大学は適正に管理運営されている。

オフィシャル・ウェブサイト上に財務情報・事業報告書を公開しており、また、健全な財務体質が維持されている。

自己点検・評価活動については、十分な体制が整っているとはいえないが、改善に向けて組織的に取り組む努力がなされている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創立100周年の記念刊行物の配布、10年ごとの創立記念イベント、学生に対する生活目標として掲げている「一人は一校を代表する」など、具体性のあるものによる意識喚起を行っている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 人間福祉学科では、教員同士で授業参観を行い、授業改善に取り組んでいる。
- 学生による「授業改善アンケート」の結果を活用したファカルティ・ディベロップメント（FD）活動により、教員の授業に対する取り組みの変化がみられ、学生の授業評価もあがっている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 両学科とも卒業後の学生と短期大学（教員）とが良好な関係を継続している様子が見え、これは、在学中のきめ細かな学生対応の結果と考えられる。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- オリエンテーションの一環として、人間福祉学科では学生、全教員、事務職員が参加して1泊2日の「合宿交流研修」を行い学生生活の不安を解消し、仲間作りの場としている。また、音楽科でも一日研修旅行を実施し同様な試みが効果をあげている。
- 学内施設は緑豊かな広い敷地に、施設が空間的に余裕をもって立地している。また全面芝生のグラウンドが中心にあり、シャワールーム付きの体育館や新校舎は広く明るく整備されている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域社会への公開講座の開催、高校生を対象とした出前講座、市教育委員会と連携しての市民大学講座、NHK 宇都宮支局と連携しての NHK 文化センター講座と活発に社会的活動を実施している。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 学生の利便性を図るために、交代制(又はローテーション)による休日振替や、交代制によるフレックスタイム等による対応が行われている。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスの記述において、テキスト・参考資料共に「なし」と記載されている科目があることなど、内容等に濃淡がある。科目によりテキストを使用しないこともあるが、学生が履修前に授業の概要を判断するためにも、参考資料等を掲載するなどの努力が望まれる。
- FD 活動としてそれぞれに努力し、取り組んでいる様子がうかがえるが、それらの活動が組織的な展開に至っておらず、個々の教員に任されている状況である。授業改善のためのアンケート結果の活用を含め、組織的な取り組みを望みたい。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生との良好な関係は、教員と学生との緊密な関係がベースになっている。こうした関係が重要であることに異論はないが、個人ベースの関係構築から、組織としての対応を確立していくことが求められる。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 保健室はスペースがあるのみで、実質上機能しておらず、体調不良の学生に対しては教員が対応しているので、改善を望みたい。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 共同研究室ならでのメリットは認められるが、教員が研究に必要な個人の備品や資料を整え、研究に専念できるスペースを確保することを検討されたい。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 教授会と専任教員会議の位置付けを明確にし、運営体制を一本化するなど、より効率

的な運用を行うよう規程の整備を図ることが必要である。

- 事務の効率化のために、現状、学科ごとに分離設置されている事務室の統一化を検討されたい。

評価領域IX 財務

- 介護福祉専攻の入学定員及び収容定員が未充足であるので、その改善が望まれる。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創立 100 周年を超える学園の歴史に脈々と流れる創立者の「全人教育」という精神は、様々な機会を通じて学生や教職員に周知が図られ、確かに学園に根付いている。また、この建学の精神から導き出された教育理念・教育方針・教育目的も学園全体での共有化に向けて努力している。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

多様な専攻やコースを設けるなど、学生のニーズや地域の要請にこたえて柔軟に教育課程を改定しつつ、教育理念を反映して体系的な編成がされている。人間福祉学科においては幼児から高齢者にかかわる福祉の専門職として求められる生活を理解する力、生活を科学的にみる視点を養う目的で3専攻の共通科目として「生活科学」を開講し、また福祉職に求められる人間関係能力を養成するために、「レクリエーション」関連科目を開講するなどの取り組みが行われている。音楽科において、数年前の入学試験から筆記試験の廃止とAO入試による入学者の増加に伴い、音楽理論の理解度把握が困難となり、習熟度別のクラス分け(学年別3クラス体制)による授業を実施している。免許・資格取得への対応については、学科、専攻に応じて、様々な資格・免許が取得できるように配慮し、学生の多様なニーズにこたえるものとなっている。授業改善の取り組みは、自己点検・自己評価委員会の中のFD部会が担当し、「授業改善のためのアンケート」の実施・分析、授業運営や改善のための情報収集や研修会、授業参観などを実施するなど、十分努力し取り組まれていると評価できる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織については、短期大学設置基準の規定を大きく上回る教員を配置している。教員の年齢構成がやや高めであることを除けば、教員組織は適正に整備されている。教員の昇任手続きについては本人の意向が尊重されており、「業績評価方式細則」に沿った審議も行われている。校地、校舎の面積は、短期大学設置基準の基準を充足し、緑に囲まれ、恵まれた環境を有しており、余裕のある校舎の配置がなされている。また、音楽科のレッスン室、人間福祉学科の実習室等、設備も充実している。図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数などは、短期大学の規模から考えて適切な水準に整備されており、極めて良好な教育環境を提供している。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標達成のための取り組みは、両学科とも高い就職率を維持していることからみて、十分に行われていると評価できる。単位認定や学習評価方法は、適切に行われている。その改善の取り組みについては、各教員に任されており、継続的・組織的なものとなっていないが、それぞれに熱心に取り組んでいる。また、「卒業生近況アンケート」や「学生時代についてのアンケート」を行うなど、卒業生にかかわる情報の収集も積極的に行われている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

ウェブサイトや学生便覧、ガイダンスなどを通じて建学の精神や学生生活の理解を支援している。AO入試など合格内定者に対しては、オープン・キャンパスでの体験学習や音楽科では「夏期音楽講習会」への参加を促している。また入学事前指導として課題を与え、添削指導を行っている。入学後はオリエンテーションを実施しており、特に人間福祉学科では学生、全教員、事務職員が参加して1泊2日の「合宿交流研修」を実施し交流を図っている。学内施設は、緑豊かな敷地に空間的に余裕をもって配置され、全面芝生のグラウンドなどが整備されている。ただし、保健室については、今後積極的な活用が望まれる。

### 評価領域Ⅵ 研究

教員の研究業績の展開は、専門性や活動内容の違から、判断がむずかしいが、短期大学の水準をおおむね満たしている。研究経費に関する規程は整備され、研究活動に関する経費及び発表機会などの環境は整備され、短期大学としての水準を満たしていると判断できる。なお、教員の研究室は、基本的には共同研究室（教員研究センター）として設置されている。また、個人研究費が職位によって差があり、教員間において、研究費の予算執行率に差がみられる。



## 評価領域Ⅶ 社会的活動

公開講座等の開催など、地域の行政・教育研究機関等と連携をとり、積極的に地域活動を展開し、地域社会への貢献が行われていると評価できる。

当該短期大学の積極的な支援体制の下、学科の特性を生かし、学科としてボランティア活動に取り組んでおり、学生の社会的活動を促進していると評価できる。

音楽科では海外の演奏家による特別公開レッスンの実施、学生の欧州研修旅行、人間福祉学科では、欧州の福祉系教育機関への訪問交流など、両学科とも、国際交流・協力について努力していると評価できる。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長・学長のリーダーシップの下、学校法人及び当該短期大学は適正に管理運営されている。理事会・評議員会・監事は寄附行為の規定に従い、おおむね適正に運営されている。教授会等の短期大学の運営体制は専任教員会議を中心に実務的に運営が行われている。人事管理について、教職員の負担が大きくなっている現状は否めないが、適切な人事管理の努力は認められる。また、学生の利便性を図るために、交代制(又はローテーション)による休日振替や、交代制によるフレックスタイム等による対応が行われている。

## 評価領域Ⅸ 財務

各部門の適正な関与のもと、予算案の作成、伝達、執行が適正に行われており、オフィシャル・ウェブサイト上に財務情報・事業報告書を公開している。また、健全な財務体質が維持されている。人間福祉学科の介護福祉専攻の入学定員及び収容定員充足率が低いので、その改善が望まれる。

教育研究を含め短期大学に必要な施設設備の整備は適切に行われ、資産管理規程などの各種管理規程も整備されており、適切に運用されている。また、危機管理や省エネルギーへの対応が行われている。

## 評価領域Ⅹ 改革・改善

今回の評価受審を機に、自己点検・評価活動の実施体制整備に取りかかったというのが実情であり、十分な体制が整っているとはいえないが、整備に向けて改善していこうと組織的に取り組む努力と意欲が感じられる。継続的に自己点検作業を進め、取り組むべき課題の発見と、具体的な行動計画の策定に努力し、報告書に書かれた将来展望を実現することを期待する。